

八月廿三日

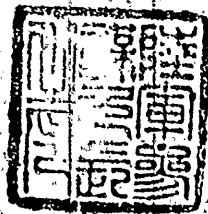
陸軍省領海押第 四二八二號

大本營陸軍參謀第二〇二一號第一

明治三十七年八月廿三日

大本營陸軍參謀次長長岡外史

陸軍次官石本新之殿



軍書

別冊露兵鑿行ニ係ル書類及片送附彙就テハ
公報ニ其隊辨ヲ表示不致支同右片了承相成
度至也

追テ字真一葉送付ニ来リ支同片送付不致至彙
片入用ナレハ可供一覽矣

結

大本營

七月十七日摩天嶺ノ戦闘ニ於テ別紙報告書ノ如ク我
兵ノ屍體ニ對シ露兵ノ蠢行有之米國紐育コリヤス週報
記者ノ一行之ヲ目撃シ右兩名ノ中中澤藤吉ノ屍體
對シ同行寫真師ノ撮影セシ寫真有之候ニ付二組相添
へ此段及御送附候也

追而右寫真ハ版權ノ關係上複寫滲断リ申上ル者撮
影者ノ申出ニ付申添候

明治三十七年七月二十三日

第二師團參謀長石橋健藏

第一軍參謀長藤井茂太殿

報告

歩兵第三十聯隊第三中隊

豫備陸軍歩兵一等卒

八重澤福昌

同

中澤藤吉

右ハ明治三十七年七月十七日摩天嶺戦闘ノ當初前哨中隊ノ將ニ本
 防禦線ニ退却セントスルノ頃敵情ヲ更ニ詳知セントスルノ必要上
 陸軍歩兵中尉柳澤整正内ヲ長トシ兵卒五名ヲ附シテ午前三
 時四十分防禦線ヲ發シ摩天嶺西方高地森林ニ差遣セリ然
 ルニ午前四時三十分同森林ノ北端附近ニ於テ優勢ナル敵兵ニ出
 會シ互ニ猛烈ナル射撃ヲ交換セリ此際前記兩名ノ兵卒ハ敵彈
 ニ依テ即死セリ兩人戦死ノ場所ハ小樹叢生繁茂ニ宛モ死體
 ヲ覆フニ適當ナリシヲ以テ其儘之ヲ掩匿シテ帰還セリ
 戦闘後戦場掃除ノ際我軍醫官ノ檢案ニ依リ敵兵右死體

對シテ發行ヲ加ヘタルコト明カナリ依テ別紙軍醫ノ報告書相添ヘ
此段及報告候也

明治三十七年七月十七日

於摩天嶺

步兵第卅聯隊第一大隊長 高草木重列

報告

歩兵第三十聯隊第三中隊

豫備陸軍歩兵一等卒

八重澤福昌

右七月十七日摩天峯戰鬥之際同嶽西方高地ノ森林中ニ於テ頭部ヲ東方ニシテ仰臥ノ位置ニ倒レ戦死シアリ之ヲ檢視スルニ頭部ハ鈍刀又ハ斧ヲ以テ割断シタル如ク前額ヨリ後頭結節ニ至ル迄割断サレ腦質脱出シ甚ク慘状ヲ極ム尚胸部ニ多量ノ出血アルヲ以テ之ヲ精査スルニ心部ヲ前後ニ貫通シタル銃創ニシテ創口ヨリ多量ノ出血シタル徵アリ然ルニ頭部割創ノ出血僅微ナルヲ以テ見レハ左胸部貫通銃創ヲ受ケ即死シタル後更ニ頭部ヲ割断セラレタルモノニシテ即チ敵ハ八重澤福昌ノ戦死シタル後更ニ進行ヲ加ヘタルモノト認メ候ニ付此段ニ報告候也

明治三十七年七月十七日 於摩天嶺

步兵第三十聯隊附陸軍一等軍醫 山崎金治

步兵第三十聯隊第一大隊長高草本重列殿

（Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page, including names like 高草本重列 and 山崎金治）

報告

歩兵第三聯隊第三中隊

豫備陸軍歩兵一等卒 中澤藤吉

右七月十七日戦闘、除摩天嶺西方高地森林中、於テ頭部
 ヲ東方ニシテ仰臥ニ倒レ戦死シアリ之ヲ檢視スルニ頭部、前額
 ヲリ後頭結節ニ至ル迄割断セラレ腦髓脱出シ甚ク惨状ヲ
 極ム然レトモ出血甚ク少シ尚腹部中央ニ前後ニ貫通シタル銃
 創アリ其創口ヨリ多量ノ出血アリ依テ案スルニ右腹部貫
 通銃創ヲ受ケ腹部大動脈ヲ損傷シ多量出血ノ為メ
 即死シタル後頭部ノ割創ヲ受ケタルモノニシテ即チ敵ハ中
 澤藤吉ノ戦死後更ニ虐待ヲ加ヘタルモノト認メ候ニ付及報
 告候也

明治二十七年七月十七日 於摩天嶺

步兵第三十聯隊附陸軍一等軍醫山崎金治
步兵第三十聯隊第一大隊長高草木重列殿

明治三十七年七月二十六日

近衛師團參謀長重見熊雄

第一軍參謀長藤井茂太殿

露兵ノ襲行

七月十九日近衛歩兵第百聯隊第四中隊ノ下士哨ヲ襲撃シタル
狙撃歩兵第百一聯隊ノ一部ニシテ戰闘力ヲ失ヒタル我兵二
名ニ對シ銃剣ヲ以テ襲行ヲ行ヒ慘狀ヲ呈セシメタルコト
如シ

- (1) 膝關節貫通銃剣兼膝蓋骨々折ノ者ニ對シ左胸部刺
創一、右背部刺創二、右腹部刺創一、右膝部刺創一、
- (2) 頸部及軀幹ノ負傷者ニ對シ左胸部二、左胸部一、背部

右ハ左大^レ腿貫通銃創^ニ骨折ノ負傷ノ為^メ死シタル如ク装
 ヒアリ近衛歩兵第四聯隊第四中隊二等卒濱田源次ノ目
 撃^テル所^ニ此際敵兵二十餘名ハ前記ニ負傷者ヲ取巻
 キ此處^ニ行^クテ^モ志^ニセ^リタ^リ